

除草剤の恐怖

以外と知られていないのが除草剤による中毒です。

これはタマネギ中毒の何百倍も怖いものです。

除草剤は駐車スペースなどの雑草退治のため、住宅街でもよく使用されます。

中毒に至るまで

除草剤をまいてある場所を犬・猫が歩き、足の裏を舐めたり、除草剤のついた草を食べることにより中毒が起こります。

犬猫は散歩から帰るとかならず足の裏を含めて体を舐めます。

中毒の程度は、摂取量によるのですが、撒いた直後あるいは数日中に歩いた場合は助かる確率は極めて低く、直接食べた場合はさらに低くなります。

撒布後、雨が降った場合は残存量が少なくなり中毒の可能性が低くなります。

これらの除草剤には、効果的な薬剤がなく、ほとんどの場合、治療の甲斐なく死亡してしまいます。薬の種類によっては摂取から死亡まで平均10時間という農薬もあります。

中毒症状としては嘔吐、虚脱、血尿などがみられます。

おもに肝臓と腎臓が冒されてしまい死に致します。

摂取後数時間でなんらかの症状がでた場合は、多量に摂取した可能性が高く、早急の処置が必要になります。

摂取からどれくらいの時間で処置したかにより、生と死を分けてしまいます。

中毒の予防

草が不自然な枯れ方をしているところには絶対に近寄らないことです。

とくに、粉が撒かれていたりする場合はとくに危ないです。

放し飼い、ノーリードでの散歩をやめることも大切です。

リードをつけて怪しいところに入り込まないようにしましょう。

普段から自由に外出する猫がふらふらになって帰宅してあわてて来院し、治療しても助からなかったというケースが数多くあります。

いつも畑のあぜ道を散歩していたケースでは、死に致ることはなかったのですが、

肝臓・腎臓を冒されて治療に長期間かかったというケースもあります。

これは、少量の毒・劇物をすこしずつ摂取したために徐々に中毒した例で、このような場合はすぐにはっきりした症状がでないことがあり、発見が遅れてしまいます。

近所で朝起きたら死んでいた犬が何頭もいる場合は、とくに、散歩コースを吟味しなければなりません。

夕方の散歩で翌朝までに死亡してしまう可能性は十分にあり得ます。

動物を飼育している家庭で除草剤を使用する場合は、撒布後雨が降るまで動物を近づけないようにします。

散布して雨が降ったといっても絶対に大丈夫というわけではありません。

除草剤を使用する場合は、動物に無害あるいは毒性が低いものもありますので毒性の低い物を選びます。

使用する場合には、使用説明をよく読んでから使用して下さい。

最近はいろいろな種類のものがホームセンターなどの量販店で売られており、そのほとんどが毒性があると思って間違いありません。

少し古い資料ですが、最後に除草剤の商品名を列記します。

毒性の高いもの

PCP粒剤・水溶剤、クロン、モトクロン、プリマージ、アレチット水和剤、アクリシッド、デゾレート、ダイソレート、クサトール、クロレート、

特に毒性の高いもの(まず、助からないもの)

グラモキソン100、パラゼットDC、グラスエイト、グリーンコート、グラスキル、クサタイジ、ナックス、ニッコソ、ドリグラン、ハイビクトS38、パラグリーンA、リーフノン、レグロックス
